

1. サプライチェーン全体において生物多様性を主流化する

(1) 生産の現場において生物多様性を主流化する

1) 農業

技術革新や政策のグリーン化を通じて、生物多様性保全をより重視した農業生産及び田園地域や里地里山の整備・保全を推進。

① 生物多様性保全をより重視した農業生産の推進

(化学農薬のリスク低減等)

- ・2050年までに、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減を目指す。

(化学肥料の低減や有機物の循環利用)

- ・2050年までに、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の30%低減を目指す。

(有機農業等の環境負荷の軽減を重視した農業の推進)

- ・2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができるよう、次世代有機農業に関する技術確立し、2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大することを目指す。

モデル的先進地区の創出等

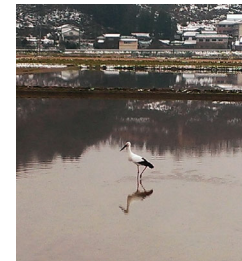


環境保全型農業直接支払

化学肥料・化学農薬を原則 5 割以上低減する取組と合わせて行う自然環境の保全に効果の高い営農活動を支援



有機農業



冬期湛水管理

② 生物多様性保全をより重視した農業生産技術の開発・普及

(農薬・肥料等による環境負荷を軽減する技術の開発・普及)

総合的病害虫・雑草管理の普及



天敵による防除



防虫ネット全面被覆

(生産力向上と土壌微生物相の保全を両立する土づくりの推進)

AI等を活用した土壌診断



生物性評価の検証

土壌診断の実施とデータベース構築

1. サプライチェーン全体において生物多様性を主流化する

(1) 生産の現場において生物多様性を主流化する

1) 農業（つづき）

③水田や水路、ため池等の水と生態系のネットワークの保全の推進

多面的機能支払

・多面的機能の発揮のための地域の共同活動や、地域資源の質的向上を図る共同活動を支援。



農地法面の草刈り



水路の泥上げ



水田魚道



生きもの調査

中山間地域等直接支払

・中山間地域等において、農業生産条件の不利を補正することにより、将来に向けて農業生産活動を維持するための活動を支援。



山形県大蔵村



千葉県鴨川市



長崎県長崎市

④生物多様性保全をより重視した畜産業の推進

(国産飼料の増産・利用のための体制整備)

・輸入飼料に依存した畜産から国産飼料に立脚した畜産への転換を推進。

・(飼料自給率)
2030年度 34%



国産飼料用とうもろこし

(家畜排せつ物の利活用の推進)

・高品質な堆肥生産を通じた広域流通の推進、メタン発酵によるエネルギー利用、発酵残渣の液肥利用の推進等により家畜排せつ物の利活用を推進。



強制発酵による
高品質な堆肥生産

・(家畜排せつ物の利用率) 2025年度 約90%

(草地の整備・保全・利用の推進)

・放牧の推進や草地の整備、公共牧場等の放牧地の整備等に対する活動を支援。



放牧の推進

⑤都市農業の推進

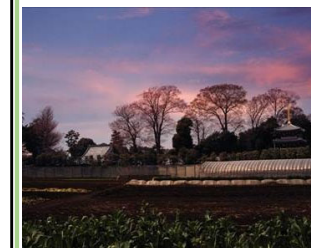
・新鮮な農産物を供給する機能だけではなく、緑地などの自然空間を提供して環境や景観を維持する機能や、環境保全の機能、市民農園等による農業体験の場を提供する機能等を有する都市農業を振興。身近に生き物とふれあえる空間づくりを推進。



・新鮮な農産物を供給



・農業体験の場の提供



・良好な景観の形成



・環境の保全